

令和3年11月19日
(2021年)

保護者の皆さま

吹田市立岸部第二小学校
校長 郷 文子

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

国語

● 概要

◎児童の平均正答率は、全国値を下回る。

◎正答率の分布は、全14問中正答数10問の値が一番高く、次いで9問、3番目が11問・8問・5問となっている。

● 各領域における成果と課題

「話すこと・聞くこと」

◇ 「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」は、全国値をやや上回る。

◇ 「目的や意図に応じ、資料を使って話す」は、全国値をやや上回る。

「書くこと」

◆ 「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」は、全国値をやや下回る。

◆ 「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように

書き表し方を工夫する」は、全国値を下回る。

「読むこと」

- ◇ 「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」は、全国値をやや上回る。
- ◆ 「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける」は、全国値を下回る。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

- ◇ 「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」は全国値をやや上回る。
- ◆ 「文の中における主語と述語との関係を捉える」は、全国値を下回る。

● 国語における成果と今後の指導改善点について

本校では、「努力目標」を「言語能力の育成」として、取り組んでおります。その中で、ペア学習やグループ活動など授業の中で話し合い活動を積極的に取り入れてきました。その成果として「話すこと・聞くこと」については全国値をやや上回ることができました。

しかし、「書くこと」や「読むこと」については基礎的な部分にも課題が見られました。今後は、児童一人一人の語彙力や表現力など、基礎・基本の力を伸ばしていき、自分の思いを文章で表現し、友達に伝えるなど、活用する力を育むことに取り組んでいきたいと考えております。

算 数

● 概要

◎児童の平均正答率は、全国値を下回る。

◎正答率の分布は、全16問中正答数9問・12問の値が一番高く、次いで13問、3番目が11問となっている。

● 各領域における成果と課題

「数と計算」

- ◇ 「場面から数量の関係を捉えて式に表し、計算をすることができる」は、全国値をやや上回る。
- ◆ 「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準値を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる」は、全国値を下回る。

「図形」

- ◇ 「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性

を基に捉え、比べることができる」は、全国値をやや上回る。

- ◆ 「三角形の面積の求め方について理解している」は、全国値を下回る。

「測定」

- ◇ 「条件に合う時刻を求めることができる」は、全国値とほぼ同じ。
- ◆ 「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる」は、全国値をやや下回る。

「変化と関係」

- ◇ 「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」は、全国値をやや上回る。
- ◆ 「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」は、全国値を下回る。

「データの活用」

- ◇ 「棒グラフから、数量を読み取ることができる」は全国値をやや上回る。
- ◇ 「データを二次元の表に分類整理することができる」は全国値を上回る。

● 算数における成果と今後の指導改善点について

今回、領域によって正答率にかなりの差がみられました。「数と計算」「測定」「データの活用」については、全国値とほぼ同じであり、基本の力が身につけていると考えられます。3年生から「少人数及び習熟度別指導」で個に応じた指導を行い、「朝学習」や「パワーアップタイム」で基礎・基本の育成に取り組んできた成果だと考えております。

一方で、「図形」と「変化と関係」についてはまだまだ基本が定着していないところがありました。

今後は子どもたちが苦手とする分野を重点的に、「朝学習」、「パワーアップタイム」、「宿題」などで学習の定着の徹底に力を入れていきたいと思っております。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

「生活習慣や学習環境等に関する調査」は生活習慣、家庭学習、学校生活と多岐に渡るものですが、以下に特徴的なものを挙げておきます。

『学習に対する興味・関心』

- ◇ 「算数の授業の内容はわかりやすいか」や「算数の問題をあきらめずに解いていますか」は、全国値を上回る。
- ◆ 「国語の授業の内容はわかりやすいか」や「目的に応じて表現を工夫して書く」は、全国値を下回る。
- ◆ 「英語の勉強は好きですか」や「英語で自分の考えや気持ちを伝え合うことはできていますか」は、全国値を下回る。

『規範意識・自己有用感』

- ☆ 自己有用感では「自分には、よいところがあると思いますか」は、全国値を上回る。
- ◆ 規範意識では「人が困っている時は、進んで助けていますか」は、全国値を下回る。

『生活習慣・学習習慣』

- ☆ 生活習慣では「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」は全国値を上回る。
- ◆ 学習習慣では「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」は、全国値を下回る。

3. 今後の取り組み

本校では、「努力目標」を、「言語能力の育成～すべての教科での言語活動を通して～」をテーマとして研究授業・討議・研修会や、研究発表会を行っています。また、朝学習の時間では、算数・国語・外国語の基礎・基本学習と読書や読み聞かせを全学年で取り組んでいます。算数においては、3年生以上の学年で「少人数及び習熟度別の指導」を行い、さらに毎月実施の「パワーアップタイム」の時間に基礎的な力を育んでいます。

昨年度より配付された1人1台のiPadを活用し、授業の中で話し合い活動を積極的に取り入れ、児童が主体的に学習に取り組める環境づくりを進めております。日頃からのご家庭でのご協力も頂きながら、上記の取り組みの成果として、少しずつ良好な結果を得ることができておりますが、国語、算数ともに一部で課題が明らかになり、改善に向けた取り組みを引き続き行う必要があることが再認識されました。

学習の基礎・基本の力を固めながら、その知識を活用する力を身につけられるよう指導に努めていく必要があります。そのためには、学校での学習のみならず、家庭学習の担うところが大きく、宿題に加えて予習・復習の充実を図るなど、家庭と学校が連携し、自学自習する力をつける取り組みを推進していきます。

さらに「読解力、判断力、思考力、表現力」といった「総合的な力」は、全教科・学校生活や日常生活全般を通じて身につけるものであり、各学年で取り組んでいる「言語能力の育成」を中心にして、今後も、学力向上につながる主体的・対話的で深い学びができるよう、取り組みの充実を図っていきます。

今後とも、温かいご理解ご協力をよろしくお願いします。

<<参考資料>>

国立教育政策研究所 令和3年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料
<https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/>